

コード No. 18761

**Anti-Human
Sir2/SIRT1 Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : 広範囲なゲノム遺伝子の転写制御機構である転写のサイレンシングは、種を超えて高度に保存されている重要な機構であり、これに関わるタンパク質として Sir (silent information regulator) 複合体が報告されており、SIR2 はその主要なメンバーです。最近、SIR2 が NAD (nicotinamide adenine dinucleotide) 依存性ヒストン脱アセチル化酵素の活性を有することが報告され、さらに、p53 に結合し脱アセチル化することが判明しました。DNA に障害が起こると p53 のリン酸化とアセチル化が誘導され、p53 自身の活性化により増殖休止あるいはアポトーシスが誘導されます。SIR2 は p53 の Lys382 残基に結合し脱アセチル化し、さらに SIR2 を強制発現させた細胞では p53 の転写活性の抑制が観察されています。このように、SIR2 は脱アセチル化を介して p53 機能の制御に関与していると考えられています。遺伝子発現制御、細胞周期、寿命 老化機構などの研究に有用です。

免疫抗原 : HumanSir2/SIRT1 の C 端部分合成ペプチド (LEDEPDVPERAGG)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫組織染色約 5 µg/mL にて使用可能

使用方法 (ホルマリン固定 パラフィン包埋切片, MW 前処理が必要 (10 mM Citrate buffer, pH6.0))

: ウェスタン・ブロッティング約 3 µg/mL にて使用可能

: 免疫沈降法約 3 µg/test にて使用可能

特異性 : ウェスタン・ブロッティングにて確認

参考文献 : 1. Imai, S. *et al.* Transcriptional silencing and longevity protein Sir2 is an NAD-dependent histone deacetylase. *Nature*, 403: 795-800, 2000
2. Vaziri, H. *et al.* hSIR2/SIRT1 functions as an NAD-dependent p53 deacetylase. *Cell*, 107: 149-159, 2001